

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年6月11日から令和元年10月9日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050222、B15018、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和元年 9月現在）

事業所名： (施設名) 長野市信州新町保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課次長 広田 貴代美	定員（利用人数）：130名（51名）
設置主体：長野市 経営主体：長野市	開設（指定）年月日： 平成13年3月27日
所在地：〒381-2406 長野県長野市信州新町里穂刈423番地1	
電話番号： 026-262-2316	FAX番号： 026-291-2119
ホームページアドレス： <a href="http://www.city.nagano.nagano.jp/">http://www.city.nagano.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：6名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・給食調理員 2名
	・保育主任 1名 ・バス運転手 1名
	・保育士 12名 ・バス添乗員 1名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 8室 ・子育て支援スペース … 1室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 6室 ・滑り台 ・ブランコ ・鉄棒 ・登り棒 ・ジャングルジム ・砂場	

### 3 理念・基本方針

#### ○長野市保育理念(保育所型認定子ども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

## ○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

## ○信州新町保育園 保育目標

自然の中で夢中で遊ぼう。

わくわくするま<sup>ま</sup>ちの保育園。

(※隠れ“しんまち”の字が入っています)

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

信州新町保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 1 園)と 2 認定こども園のうちの一つで、平成 13 年 3 月に当時の信州新町の町立保育園として開設され、平成 22 年 1 月信州新町が長野市に合併したことに伴い、現在、長野市の中規模園として運営、継続されている。

当保育園の前身は旧信州新町に昭和 34 年に開設された中央保育園であり、昭和 37 年から 38 年ごろ、それまで町内に季節保育所として運営されてきた 19 の季節保育所が認可保育所となった時期まで遡る。その中には現在の信州新町保育園に統合される前の上条・竹房・日原・万福寺・中部・牧郷・水内などの各保育園が含まれている。その後、旧信州新町として、昭和 42 年に中央保育園を新築移転し、昭和 49 年には土口保育所を開設、昭和 54 年に竹房保育園を新築、昭和 56 年に万福寺、中部、土口の保育所を統合した津和保育園を新築、昭和 57 年に日原保育園を新築、昭和 59 年に水内保育園を新築した。平成 13 年 3 月、園児数の減少により 6 園を統合し現在地に新築移転され信州新町保育園となった。

当保育園は長野市から名古屋市まで続く国道 19 号線沿いの町の中心部からやや北西の小高い丘の住宅街の中にあり、近くには現在市の支所として使用されている旧信州新町役場、小学校、中学校があり、旧町内には信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館等もある。近年、多くのアーティストやクラフトマンがここ信州新町にアトリエを構え、定住して創作にいそしんでおり、アーティストやクラフトマンの下で体験や見学もできるようになっている。また、信州新町は「街道」と呼ばれるくらい、ジンギスカン料理の店が多く、昭和 40 年、50 年代の車社会の到来と国道沿いということも加わり交通の便が良く、それ以降、「ジンギスカンの町 信州新町」として定着している。

町の人々が親しみ、また、愛する犀川は山あいを西に東に小さく蛇行しながら、とうとうと北へ流れ、善光寺平で千曲川と合流し、新潟県に入ってから信濃川に名を変え、やがて日本海に注ぎ込んでいる。当保育園はその川から一段高い丘陵地帯にあり、自然が豊かで、子どもたちの散歩や探索の場も多く、散歩のエリアも犀川沿いにあるグラウンド、神社、公園、橋などにも及び、散歩コースも年齢に合わせて幾つか設定されている。平成 28 年 10 月には「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在 3 年目に入っている。

子ども達の多くが住む信州新町や大岡地区は中山間地で農業を営む 3 世代同居の家庭の他、町内や長野市街地に通勤する若い世代も多く、祖父母が近くに住みながらも核家族として一戸建てに住む世帯がある。地域の人々の当保育園への関心は高く、園舎は築後 18 年を経ているが、木もふんだんに使われ堅固で、保護者や老人クラブの人々により環境整備がされ、きれいに維持されている。旧信州新町の時から子どもたち用の園バスや市バス、スクールバスなどの使用についても継続しており、父母や祖父母の送迎の負担を軽減している。

当保育園の東方向には園の多くの子どもたちが就学する長野市信州新町小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校

との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の音楽会や運動会に招かれ、また、見学をするなど、小学校児童との様々なふれあいの時間を持っている。

現在、当園には0歳児と1歳児のもも組、2歳児のたんぼぼ組、3歳児のうめ組、4歳児・5歳児のたけ組の四つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された2019年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、職員は「子ども一人一人の気持ちを大切にしながら、心と体が豊かに育つような保育を行います」と、じっくりと時間を掛けて子どもの育ちを待つと同時に、そのためのいわば土壌を整え豊かにして、育ちを可能にし、実現していくようにしている。また、その意味合いからの基礎を培うために、園内外の研修などで保育の専門性を高めつつ、意思統一を図り実践している。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するための長時間保育や一時預かり、障がい児保育、おひさま広場等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで、標準時間保育と合わせると三分の二近くの子ども達が利用している。一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ子どもを受け入れている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で当園では障がい児用のトイレも設置している。更に、おひさま広場では未就園児と保護者対象に園開放と子育て相談も行っている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2019年度から2021年度までの中期計画として、2021年度に長野県自然型保育(信州やまほいく)の再認定を受けること、長野市運動プログラムや運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ることなどに積極的に取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの重点課題、「保育内容の充実」として信州やまほいくの充実による自己肯定感の醸成や地域の人々や高齢者との交流により豊かな人間関係を育てること、異年齢保育や年齢別保育の充実、小学校との連携の推進などを掲げ、乳幼児期の日々の生活の中で子どもが熱中して取り組むことで、感性が働き、意欲が湧き、思考が働き始め、結果として学びとなっていくように、職員一人ひとりが、保育実践や研修などを通じて保育の専門性などを高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協働性を高め、保育園全体の保育の質の向上を図っている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回が初めて
---------------	--------

## 6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

### ◇特に良いと思う点

#### 1) 自然環境を活かした保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Iで「『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その1の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」としており、当保育園はそれらを実践している。

当保育園は平成28年10月に「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在3年目に入っている。

当保育園園舎西側には「ろんでん沢」という砂防堰堤で守られた沢があり当保育園の保護者会により整備されており、沢の中心部には小さな橋がかかった小川が流れ、ヤゴや沢ガニが棲み、オニヤンマなども飛び交い、季節の山野草などが育っている。その川原は絨毯のような草に覆われ大きな切り株を利用したテーブルやイスもあり、料理ごっこなどができるようになっている。

また、その沢の両側は斜面になっていて、西斜面は広葉樹や真竹、山野草が生い茂る山で、そこにはロープが結ばれ斜面を上り下りでき、また、東斜面は土手で、子どもたちが土手登りや滑り降りなどをして楽しんでいる。訪問調査当日も2歳児が年長や年中の子どもたちの登り降りする姿を見て真似をしようとしており異年齢の子どもたちがふれあえる場ともなっている。

子どもたちは日常的に自然と共にあり、雨が降ってもカッパを着て散歩をしたり、2才児にはカッパが苦手な子どもがいるため、職員が考えた「カラーポリ袋天井傘」(ポリ袋を張り合わせた、クラスの子どもが全員入るサイズの長方形シート)で雨降りの散歩をし、雨の音を楽しんだり、水たまりに入ってみたり、植物にたまった雨を観察したり、かたつむりやかえるなど雨の日に見られる生き物を探している。当保育園の週日案、月案等で信州やまほいくの実践や柳沢運動プログラム、長野市運動プログラムなどを取り入れ、子ども同士または保育士が入ることで活動が広がったり友達との関わりができるような遊び・ゲームなども取り入れ、ルールが自然に身につくような遊びも行っている。そうした中で、子ども達は折々の自然や動植物に親しみつつ五感を思う存分働かせ豊かな感性を育てている。

更に、子どもたちは散歩コースで捕まえたカネチョロ、クワガタ、カタツムリ、ダンゴムシなどを園に持ち帰り飼育したり、園の畑やプランターで野菜を栽培しており、ミニトマト・オクラ・キュウリ・ナス・ミニキャロット・ジャガイモ、サツマイモなどを職員とともに育て、その生長を観察し、収穫したものを給食食材として使用するなど、「食」の大切さも学んでいる。

身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々に表現することなどを通して豊かな感性が養われるという。当保育園の子どもたちは風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など、自然の中にある音、形、色などから様々な気付きを得て、自然の中で教えたり、教えられたりして遊びを通じて人間関係なども学んでいる。

## 2) 社会性や協調性、思いやりの心を育てる異年齢での交流

当保育園の今年度の事業計画の中の重点課題の「保育内容の充実」として「異年齢保育、年齢別保育を充実させる」と掲げており、0歳児2名・1歳児4名のもも組、2歳児12名のたんぽぽ組、3歳児10名のうめ組、4歳児8名・5歳児15名のたけ組という4クラスがあり、異年齢の友達と元気に遊んだり生活を共にする中で相手に自分の思いを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたり、友達の良いところに気付き分かり合い、友達と共通の目的に向かってやり遂げるという喜びを味わっている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰでも『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その3の「人との関わりと表現力を養う活動の充実」として「自分とは異なる思いを持つ友達の存在に気付き人には違いがあり、違っていても良いと理解する心の育成」として目指す内容を示しており当園でも具体的に実践している。

年少と年中のクラスも同年齢保育を行う際には、それぞれ15名と8名に分かれるので、それらを加味すると各クラス10人前後の園児数で規模的に、理想的な編成であると思われ、職員の子どもたちへの配慮や見守りも小まめにでき、一人ひとりの子どもへの関わりや状況把握も的確にでき、一番は子どもと職員との双方向の話が出来ている。

当保育園ではクラスは同じでも、年齢が分かるように日よけのついたカラー帽子をそれぞれ着帽しており、基本的に午前中は同年齢同士の横のつながりを主とした活動を行い、午後は異年齢の子どもたちでのクラスの活動をしている。

各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が自然に生まれており、年下の子どもは年上の子どもに刺激を受けて興味や関心の幅を広げており、年上の子どもを目標とするため実力以上の能力を発揮している。一方、年上の子どもの場合、年下に様々なことを教えることによって、思いやりの気持ちを育むことができ、さらに、年下の子どものお手本になることで、自分に自信を持つことができるようになっている。

核家族化や少子化によって子どもたちが異年齢の子どもとかわることが少ない現代、異年齢の子どもどうしが関わることで多様な仲間関係や自我の発達にプラスになると言われている。当保育園は子どもたちが年齢の垣根を越えて交流できる貴重な場となっており、それを通して一人ひとりの子どもの拠点となる場所や居場所が広がり、縦割りクラス、横割りクラスの先生などとの関わりも広がり、職員自らも保育の幅を広げる良い機会と捉え日々の保育を行っている。

### 3) 定期的なエピソード研修

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Vで「『育ちを確実にする』職員の力量の向上」と掲げ、その取組の方向性2の「職場研修の充実」として「様々な研修によって得た知識や技術を用いて指導力の向上を図ります」とし「具体的な事例研修を重ね、各園の実践研究体制の強化を図ります」としている。

当保育園では「エピソード研修」を定期的に行い、各職員が嬉しかった事例だけでなく、失敗した事例なども詳細に発表し合い、共有しながら、発表者（先輩や同僚）の経験・体験を聴講者が自らの財産として活用している。

職員は保育活動を行う中で、日常の何気ない1コマの子どもたちどうしの、また、子どもと職員、更に子どもと家族・地域の人々との交流から気づきを得て、保育者として子どもに何らかの活動をさせて能力や力を身につけさせようとする保育ばかりではなく、「心」を育てる保育を実践している。

保育の本質は、子どもの能力発達を育てる以前に子どもの心を育てることにあると言われていて、職員は子どもの心の動きを中心に気づきを得ることで、目に見えにくい「心」を取り出しエピソードとして可視化し、全員で共有化しようとしている。一人ひとりの子どものエピソードを語ることで職員が「私にはこの子の気持ちの動きがこう感じられ、私がこう思ったことに対してこの子はこう思った」というように、子どもとの間で目には見えないが保育者としての身体に確かに感じるものがあり、それを積極的に「私がこう感じました」と語り合っている。聞く側はその「私」を追体験して気持ちを共有し、「自分だったら」と、その立場からもう一度保育を考えなおすことができ、また、語る側は自分が何を考えて保育しているか再認識することで自らの次の保育に役立てると同時に、保育者同士で実践を語り合うことでより良い保育へと繋げている。

### 4) 風通しの良い職場風土

保育園としての規模的な部分もあると思われるが、園児数・職員数的にも、コミュニティーを構築するにはほど良い規模で、園長以下全職員が、園児各々の状況を共有し、全員で的確に対応している。職員会を始めとする各種会議も、園長の指示・伝達を軸にして始まり、大変きめ細かな内容で実施されている。

子どもたちと職員の関係も双方向で、全員が仲の良い友だちであり、全職員が全園児と親しく接し、園の目標の中の「わくわくするまちの保育園」づくりに向けて全員保育を実践している。また、職員の関係がアットホームで、なおかつ組織として機能しており、全職員参加型の建設的な園運営が行われている。

当保育園は築18年を経た木造の平屋建てで、当初から障がい児用のトイレや0歳児の保育室に横型オムツ交換台など備え付けられており、また、段差もなく使い勝手が良いように設計されているが、そうした中でも職員がおもちゃを手作りしたり、また、広々としたスペースでははいや運動遊びができたり、ボールプール等のあるプレイルームなど、園舎内の空間を上手に利用している。

当保育園では長野市の保育理念や基本方針、園目標に沿いながら「保育士がやりたい保育」を実現するためのサポート体制が職員間で出来上がっており、長野市公立保育園で毎年度1園1テーマで実施されている「レポート研究」についても今年度「ろんでん沢」での活動を主として自然保育に絞り全職員が協働している。

園の事業計画にも「働き方改善の取り組み」として掲げ、時間外労働の削減、休暇の計画的な取得などに取り組んでおり、仕事と生活の両立という面から育児休暇や介護休暇、療養休暇など、状況に応じて休暇が取得できるようになっている。福祉人材の確保、定着の観点から、休憩パート保育士の確保、育休取得時の代替保育士の配置等も行われている。休暇取得や配置等のいずれも、職員同士が意思疎通を図りながらそれぞれの都合を融通し合っている。

職場を明るい雰囲気にして、職員同士を良い感情で交流させるためには、安心感を作り出すことが重要であるとされている。安心感はすべての意見が平等に扱われること、コミュニケーションを取るツールがあること、また、リラックスした空間で互いを知ることで作られるという。

当保育園ではさまざまな情報を提供しやすい環境を整え、園長が情報の発信を促し、気軽に情報共有が行える場づくりをしており、また、職員も的確な責任感を有し、問題意識と自己向上意欲をもって保育に取り組んでおり、それらが相まって風通しの良い職場づくりにつながっている。

## ◇改善する必要があると思う点

### 1)安全への更なる取り組み

当保育園では年2回の総合的な消火訓練と年1回の通報訓練を実施しており、そのほかに想定を変えた避難訓練を毎月実施している。また、災害時に子どもの安全を確保するため、市支所や小・中学校、駐在所、消防署、保護者等、関係者に協力いただきながら必要な対策を講じている。

また、「危機管理マニュアル」により各種災害対応を職員会研修で実施している。当保育園は、土砂災害イエローゾーンになっているため、徹底して避難訓練を行い、避難場所の信州新町中学校への避難経路図を事務室、各保育室、廊下等に掲示し万が一に備え意識を高めている。消防計画書や土砂災害訓練計画を消防署に毎年度提出し、9月には警察と連携した不審者対応訓練、11月には災害時の集合訓練等を計画している。また、災害時の引き渡し訓練や連絡網を使った安否確認も組み込み万全を期している。玄関に近い事務室出入口には非常持ち出し品の袋を備え、主任が定期的に入れ替え、補充・整備している。

当保育園では不審者を想定した避難訓練も実施しており万が一に備えているが、主要道路から一步入った場所に園舎があり、南側と西側は開放的で出入りも容易であることから、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備え、更に、必要な対応を取られることが望まれる。市としてのマニュアルに当保育園として想定されるリスク対策も加え、当保育園としてのマニュアルを再整備され、職員がそれを熟知し、日頃から実際に不審者の侵入があった場合にどう対応するのか幾つかシミュレーションし、備えられることも重要ではないかと思われる。

### 2)園庭の遊具について

子どもたちの主体的な遊びの環境として園庭は、築山のある場、起伏のある場、樹木のある場、水のある場であり、それらが複合的に構成され、遊びのきっかけや拠点となって多様な遊び場を提供していると言われている。

子どもたちが何かをやるということは五感を働かせて体験することであり、また、学習することでもあり、まさに生きているということである。大人から見たら無駄な「遊び」にしか見えない行いが、子どもにとっては脳の機能を高める重要な体験であり学習となっているものと思われる。

1995年に改定される前の幼稚園設置基準では「すべり台」、「ブランコ」、「砂場」を備えなければならないとされていたが、現在はその制約はなく、多様な固定遊具が開発されており、独自の遊具の設置が望ましいとされている。

子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じることが保育園としての責務である。当保育園でも毎日の遊具点検と各クラス月1回の安全点検が行われており、複数の職員で同じ所をチェックし、見落としのないようにしつつ安全を確保している。

保護者から要望のある、不使用となっている固定遊具については、不測の事態がいつ起こるか分からないので子どもたちの安全確保という面からも早期に撤去されることが望まれる。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(令和元年 10月 5日記載)

受審にあたって、職員自身が積極的にマニュアル等の見直しを行い、職員の意識の向上・保育の質の向上に繋がったと思います。子どもたちの育ちを一番に考え、園内研修や自己評価を行い自分たちの保育を見直しながら、普段通りの保育をみていただけるようにしようと職員全員で協力してきました。

良い評価をいただいたことにつきましては、今後も更なる保育の充実に繋がるよう工夫し、継続していきます。

改善する必要があるとされました安全への更なる取り組みについては、マニュアルの再整備とそれを職員が熟知し、更なる安全への意識を高めていきたいと思えます。園庭の遊具撤去については、保育・幼稚園課担当者と早期撤去に努めたいと思えます。

保護者の皆様には、アンケートでたくさんの心温まるお言葉や、改善を望まれる声をいただきありがとうございました。また、コスモプランニング様には、良い点や改善点を示していただきありがとうございました。

職員一同、さらに保護者の皆様との信頼関係を深め、共に子どもたちのより良い育ちを願う保育に努めていきたいと思えます。